

SONORA CX

出版印刷の 厳しい要件に対応

豊国印刷株式会社



出版界初! 講談社グループの本づくりにコダックの完全無処理 CTP プレート SONORA CXを採用し、返本・欠品対策に有効な小ロット重版に対応。さらにトータルコストを15%、300万円以上削減。

講談社グループの生産の要となる出版印刷会社

東京都文京区に本社を構える豊国印刷株式会社は、講談社グループの一員として同グループの本づくりを担う出版印刷会社である。データ制作から製版、印刷まで手がけ、1946年の創業以来、時代に先んじた技術変革を通して講談社の出版事業を支えている。1959年に創刊した週刊少年マガジンでは製版業務を一手に引き受け、マンガ雑誌の高品質な製版技術を確認した。1970年の講談社文庫の創刊時には、埼玉県ふじみ野市にオフセット印刷の専門工場を設立し、従来の活版印刷ではなく、写植・オフセット印刷による文庫印刷を業界に先駆けてスタートさせた。2015年には同工場を拡張し協力会社を誘致。文庫や単行本など書籍専門の生産ラインを集約した「Kodansha Book Factory」へと進化している。現在、豊国印刷では1/1色の両面枚葉

「刷り出しのスピードや刷りやすさは、有処理版と変わりません。SONORA CXになって、傷の心配もなくなりました」

印刷機（菊全判・四六全判）5台の他、講談社所有のデジタル印刷機も運用し、小ロットの書籍生産ニーズに応えている。デジタル化が加速する近年では、出版に正面から向きあう専門集団として電子書籍、電子コミックなどのデジタルコンテンツの制作、デジタルアーカイブ管理、配信アプリの運営、マーケティングツールの開発、さらには装丁デザインや動画制作、コミック翻訳まで事業領域を大きく拡大している。



専務取締役 生産本部 本部長 岡田 秀樹 氏



生産本部 副本部長 生産管理部 部長 新山 忠義 氏



生産本部 印刷製造部 マネージャー 古郡 弘 氏



自動現像機を外した CTP



1/1 色の両面印刷機を 5 台保有



著者安藤祐介さんの 3 年の取材による力作

同社をモデルに本づくりの裏側を描いた「本のエンドロール（安藤祐介著）」は、印刷業界必読の書である。

小ロット・短納期の書籍印刷を目指して SONORA の導入を模索

同社が KODAK SONORA プロセスフリープレートに興味を持ったのは 2017 年 8 月のこと。印刷業界での評判を聞き、導入に向けた印刷テストを実施した。その理由について専務取締役 生産本部 部長の岡田秀樹氏は次のように話してくれた。

「書店で売れ残った書籍は出版社に戻され在庫として保管されます。注文があればまた再出荷されるのですが、近年は返本率が 40% もあって出版社にとっては大きな負担でした。こうした在庫リスク対策として講談社では初版部数をよりシビアに設定して返本率を改善すること、さらには重版も今まで以上に小ロット・短納期化を図り、書店からの注文に素早く応えて欠品を減らすことを目指しています。これらを実現するにはデジタル印刷機の活用はもちろん、オフセット印刷でも『より速く、より安く』印刷する手法を追求しなくてはなりません。こうした私たちの考えにコダックの SONORA プロセスレスプレートが合致しました」
岡田専務の構想は「無処理版なら現像工程がなく、出力時間が短縮できる」「スケジュール通りに効率良く刷版を印刷工程に回せば、版替えが頻繁な小ロットの仕事でも刷り出し時間が短縮でき、短納期対応が可能になる」というもの。さらに薬液の購入費や廃液処理費、現像機のメンテナンス費などのコスト削減にも貢献できると考えて印刷テストに踏み切った。

耐傷性を高めた SONORA CX を高く評価

テスト印刷の結果に確かな手応えを感じた同社は、10 月に入ってより細かな検証作業をはじめた。CTP の露光設定を SONORA にあわせ、各印刷機での印刷適性や品質を順次テストしていった。墨一色の出版印刷はごまかしがきかない。文字が少しでも太ると濃く見えて誌面の印象ががらりと変わる。重版であれば、初版と変わらぬ品質再現が必須条件になる。このため、SONORA には従来と同一品質を維持することが求められた。生産本部 印刷製造部 マネージャーの古郡弘氏は「自動現像機を外し背水の陣で臨んだ」と当時を振り返っている。「刷り出しのスピードや刷りやすさは、これまでの他社製有処理版と変わらず全く問題ありませんでした。ただポジ版からネガ版に変わったことで、網点の再現性に違いが生まれました。この問題については露光カーブの調整で無事クリアできました。印刷工程でも汚れの出やすい印刷機があったのですが、コダックさんのアドバイスに従って運用方法を変

えることでうまく改善できました。視認性については、面付け済みのデータをモニターで確認できるようにしました」

様々な課題をひとつひとつクリアして実運用へと進んでいった同社だが、最も苦労したのは耐傷性の問題だった。フルカラーの商業印刷では気にならない小さな傷が墨一色の文字モノでは目立ってしまうのだ。このため刷版の取扱いには特に注意を払ったという。ただ翌年 2 月にコダックが発表した、耐傷性を飛躍的に高めた最新版 SONORA CX を使い始めると様子は一変した。深い傷は全くなり、従来の有処理版と同レベルまで改善できたという。岡田専務も「SONORA CX で、すべてがうまく行くようになった」と絶賛している。

出力時間の短縮と 15% のコスト削減を実現

生産本部 副本部長 生産管理部 部長の新山忠義氏は、SONORA CX 導入後の波及効果を次のように高く評価している。

「これまでは月に 1 回 2 時間かけて面倒な液交換をしていましたが、その手間が全くなり、臭気も解消しました。自動現像機のスペースは今後、有効活用できるでしょう。出力時間が短くなったので下版が重なっても残業の心配がなくなりました。また、これまで朝一番の仕事では現像機の薬液が安定するまで版が出力できなかったのですが、SONORA にしてからは CTP の電源 ON ですぐに出力できるようになりました。朝一番で使う版を前日に準備しておく必要がなく、省人化にも大きく貢献しています」

現在の出力版数は月平均約 2,500 版。今後、小ロットの重版が増えれば、版数も当然のように増えてゆく。しかし岡田専務は「SONORA なら大丈夫だ」と太鼓判を押す。人件費、薬品購入コスト、廃液処理コスト、設置スペース等トータルで年間 300 万円を越えるコスト削減目標も達成できたとその成果に満足している。出版不況のなか、大胆なビジネス改革を進める講談社グループの挑戦をコダックの技術が支えている。

豊国印刷株式会社

代表取締役社長 廣田 浩二

本社：〒112-0015 東京都文京区目白台 3-29-18

TEL.03-3943-5377 FAX.03-3943-5647

印刷製造部 (Kodansha Book Factory) :

〒356-0051 埼玉県ふじみ野市亀久保 1141-1

TEL.049-262-4911 FAX.049-265-0714

<http://toyokuni.tokyo/>



写真は Kodansha Book Factory

コダック 合同会社

<http://www.kodak.co.jp>

〒140-0002 東京都品川区東品川4-10-13 TEL.03-6837-7285(営業代表)

大阪：050-3819-1266 名古屋：050-3819-1265 福岡：050-3819-1270

仙台：050-3819-1255 札幌：050-3819-1250 金沢：076-200-9583

製品のお問い合わせ先 JP-GCG-products@kodak.com

2018-12

